

## 第8回県政ひざづめ談議結果概要

- 実施日時：平成22年8月25日 16:10～
- 開催場所：上野原市商工会
- 対話グループ：上野原機械器具工業協同組合

### ○司会

どうも大変長らくお待たせいたしました。県政ひざづめ談議を早速始めさせていただきます。

はじめに知事からあいさつをいたしますので。

### ○知事

皆さん、こんにちは。

今日はそれぞれ大変お忙しい方々ばかりでありますけれども、そういう中、ご出席をいただきまして、本当にありがとうございました。

皆さま方には本当に山梨の産業振興のために、経済発展のために、日ごろご尽力をいただいておりますので、心からお礼を申し上げたいと思います。

今日は上野原市の機械器具工業協同組合の皆さま方にお集まりをいただいたわけでありまして、上野原の企業は、それぞれにきらっと輝く技術を持った企業が非常に多いというように思っております、我々にとっても非常に期待をさせていただきます。

そういう中であっても、リーマンショックのあと、ようやく苦しみの中から回復をしてきたと思ったら、ここへ来てまた円高というようなことで、皆さん方のご苦労は絶えないだろうなというように思うわけでありまして。

今日はざっくばらんにいろいろなご意見をぜひ聞かせていただきたいと思うわけでありまして、日ごろのいろいろな悩み事とか、あるいは県政に対するご要望というようなものを、ぜひお聞かせをいただきたいと思います。

我々といたしましても、ぜひこの産業グローバル化とか、いろいろな大企業が海外に行って、空洞化に進んでいくとか、いろいろな問題がいわれておりますが、そういう中であっても、本県の企業の皆さん方がしっかりと生き残り、発展していただけるように、我々としても最大限のことができたらいいと思っておりますので、ぜひ今日はいろいろなご意見を聞かせていただければ、ありがたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

### ○司会

それでは続きまして、同席をしております県と市の担当者の紹介をさせていただきます。

まず、経営革新などの企業支援を担当しております、尾崎産業支援課長です。

### ○産業支援課長

尾崎でございます。

### ○司会

続きまして、上野原市の産業振興を担当しております、清水建設経済部長です。

○建設経済部長

清水です。よろしくお願いします。

○司会

それでは早速、意見交換に入らせていただきますが、まず理事長さんのほうから一言ごあいさつをお願いします。

○参加者

猛暑の厳しい中、本日は大変お忙しい中を横内知事には、当組合のひぎづめ談議を設けていただきまして、誠にありがとうございます。

また日ごろは、こうした不況の中での高度化資金だとか、また経済緊急資金だとか、いろいろ多面にわたりまして、工業界に大変なご援助をいただきましたことに対して、厚くお礼申し上げます。

また、過日3月7日には、私ども中小企業団体中央会のふれあい祭りに参加させていただきまして、そのときに知事さんが私どものブースに来ていただき、激励をいただいたということで、当時の知事さんの言葉の中に、「上野原の工業技術は山梨県のお宝物ですと。ひとつ、この不況の中でも頑張ってくださいということを組合員にお伝えしていただきたい」というふうなことを申されましたことが、私の脳裏に深く刻まれておりまして、実は今年の総会におきまして、知事さんの言葉をそのまま伝えて、一同が感銘を受けたところで、ありがとうございます。

また、これからひぎづめ談議に入っていくわけでございますけれども、何しろ我々、話し下手の会社のおやじでございますが、そんなことで失礼な点多々あるかと思っておりますけれども、そのへんはどうかご容赦いただきたいと思っております。

私どもは、組合の活動の様子を広くPRしようと、紹介用のDVDをつくっております。短編でございますけれども、これをいろいろと、今年はさらに充実したものに持っていこうという計画の中の、ただ本当に初歩的なものでございますけれども、これを見ていただきたいと思っております。よろしくお願いします。

(DVD 視聴)

○知事

これが皆さまの製品で。

○参加者

これに知事さんが来てくれたときに、あれを全部撮影してありますから、このへんも入れた形でまたつくりますので。

○知事

これは皆さまがおつくりになっているわけですね、このルートですね。  
これはなんですか、このフィルムみたいなものは。

○参加者

それはICチップが入っているテープなんですけれども。

○知事

何に使うんですか。

○参加者

携帯だとか何かの記憶の・・・。

○知事

なるほど。記憶装置でね。

○参加者

だから、0.4の0.2というICチップなんです。また後ほどあちらで見  
ていただければ、拡大して。全然もう肉眼では見えるようなものではないですけ  
れどもね。

それを、これで昔は手でもっと大きいから、置いて付けたらしいんですが、今  
はもう本当にそういう自動機で付けるように、そのためのテープを送る、この装  
置の、現在はこの機能付きの部品のところをやっているんですが。

○知事

そうですか、テープを送って。この中にくっ付けるんですか。

○参加者

それはチップが巻いてあるテープなんです。

これを、そういう、こういうプリント板へですね・・・。自動盤、これへこう  
細かいチップを。

○参加者

これをこうほどくと、ここに黒い、これがICチップ。

○知事

これですか。

○参加者

ついでにあそこへ行って見てもらえれば。

○参加者

では知事さん、あの顕微鏡で見てください。

あそこへセットしてありますから、ちょっとひとのぞきしていただければ。

そういうチップを基板へ貼り付けるというか。

そんなものの部品をやったりしています。

○知事

これはなんですか。

○参加者

それは本当にもう自動プレスの、これは製品になって、しているんですか。

○知事

これは製品ではなくて、これは見るためのもので・・・。

○参加者

これは中国でつくりました。

○知事

すごいですね。

○参加者

これはマシニングセンターで。

○知事

部品ですね。

○参加者

切削部品ですね。

これが例の燃料電池ですか。

○知事

これは何でできているんですか。

○参加者

樹脂を。

○知事

そうですか。燃料電池の中にこんなものは入っているんですか。

○参加者

はい。ここにもありますが、そこは加湿ユニットというところがありまして、そこは弊社でつくっている部分なんですけれども、ここで取り込んでいる酸素を良質なものにして、この酸素を、その左側に燃料電池スタックというところがあるんですが、そちらに送る部品になります。

○知事

なるほど。そしてこの水素と緩和させるということですね。

○参加者

はい、そうです。

○知事

酸素を取り込んで、それを質の良いものにして、不純物を取って。

○参加者

はい。

○知事

そういうものなんですね。

○参加者

これも梨大の研究しているあれですよ。

○知事

梨大とは一緒にやっておられるんですか。あちらへ入っておられる。

○参加者

ちょっとすみません。弊社の社長のほうから少し話を伺っていたんですが、客先のやっぱり特許のものということなので、弊社のほうでは、勝手にというのもあれですが、ちょっとやるということはいえませんが、ちょっと今は・・・。

○知事

燃料電池、ナノ材料センター・・・。燃料電池のある部分なんですよ、研究しているのはね。

○参加者

すみません。ちょっとそこは・・・。

○参加者

しかしそれはもう自動車メーカーのほうで話を進めているわけで。

○参加者

いずれにしても、先端のものはやっているんですが。現状、新興国の中国をはじめとする、技術が上がってきましたからね。大手さんはみんな向こうへ仕事を投げるようになりましたから。先ほど知事が言われたように、空洞化、だんだんしてくるんじゃないかと思うんですけれどもね。

○参加者

これなんかも、今あそこで見てもらったこの中にバネがあるんですよ。これは携帯電話のガーッと音がするところのバネなんですよ。これをせっかく日本で上野原の人が、これは特許を取ったんですよ。これを中国で売ろうということで持って行って宣伝して、そして2回目に行ったら、この特許が中国で取ってある。

そしてがっかりしたということですから、結局、品物は使いたいということで、今、値段折衝に来ているそうですけれども、特許は向こうだから、特許料はもういいよと。品物だけ譲ってほしいと。

○産業支援課長

中国に行くときには本当に裸で行くようなものですから、ぜひ事前に商標を抑えて。

○知事

中国の特許を取って行かなければいけないということですね。

○参加者

ところが品物ができないから、品物はほしいよ。型をつくってくれということで今、注文が来ているということですからね。

○知事

いかがですか。

○参加者

仕事の内容の部分で意見とかではないんですが、上野原という地域が正直、東京が近いもので、ベットタウンというようなイメージがあるんですが、私も若いころ、はじめに就職したのが東京のほうなんです。

まあ、年齢的に地元のほうでも少し仕事をしてみたいなという考えがありまして、今はこっちへ戻ってきているんです。県のほうでもPRというか、若い人に向けてUターンというんですか、こっちに帰って来いよみたいな、そういうPRなんていうものは、県としてはやっていないんでしょうか。

○知事

Uターンもやってはいるんですけれどもね。

○参加者

だから今は就職難で、企業の求人、このバランスじゃないかと思えますけれどもね。

○知事

1社をマッチングするための何かあるんですよ。

○参加者

これは中小企業団体中央会でもちよいちょいやっていますし、国の機関でもこういう事業をやるからということで、労政雇用課さんのほうとかも通知が来たりして、やっています。

だけど、なかなか通知はファックスしたりして、周知を徹底しているんですけども、なかなかパツとしなくて、ファックスをパスしてしまうというのが結構。

○知事

インターネットを見ていけばね、できますけれどもね。

あなたはやっぱり地元で働きたいという思いで、こちらに戻られた。

○参加者

そうです。

○知事

そうですか。

○参加者

この地域は結局、こういう工業が発達したと、またさっきのビデオでも分かるように、もう山梨でも一番悪い時期から、こうした産業がこの地域は定着してきた。それで今までは、もう山梨へ行けば、もう上野原というところに行けば何でもできるよと。あそこでできないものはないよというくらい、一時期、京浜工業地帯のほうでは売れたんですよ。それがだんだんこういう中央高速道路の開通によって、西のほうへ進んでいったり、あるいは東北のほうへ行ったりするような企業が分散していってしまった。

ですから、割り方、厳しくなってきたわけですが、やはり今現在も何だかんだ言いながらも、上野原は頑張っていますよ。

○知事

ビデオを見て、初めて気がついたんですが、かなり早いうちから、やっぱりこの、製糸が行われてね、養蚕、製糸が行われて、そのためのやっぱり機械製造というのがあったんですね。機械工業がね。それが伝統になって、今につながってきているんですね。私はやっぱり東京に近いから、工業団地ができて、それで向こうから来たのかなと。

あるいは戦時中に県は疎開したじゃないですか。それで来たのかなと。大月なんかは、やっぱり結構多いですよ。そういうことなのかなと思ったら、そうでもないんですね。

○参加者

上野原というのは、地元の若者が起業、いわゆる事業をおこして、事業展開をしてやったというのが過去あって、皆さんそうですからね。だから、そういう経緯の中で、やっぱりこの産業が上野原を支えてきたといっても過言ではないかと思えます。

ですから、もし万が一、新興国に押されて状況が変わってしまったら、上野原も大変な思いをする。それだけ深刻な状況ですから、何としてでも、この上野原の産業をもう1回、何とかしたなというのが我々の考えですけどもね。

○知事

県としても、そういうことに対して、もう最大限の応援をしたいと思うんですがね。

○参加者

ですから、我々の産業は何とか隆起していくことが、いわゆる上野原の商業をも引っ張っていくということで、商工会の発展にもつながり、ひいては上野原市の発展につながるというようなことですから、また知事さんのほうも何か、こういう電池のことで何でもいいですから、あの地域はこういうものを持っていてやったらどうだというようなもののご提案があったら、ひとつぜひお願いしたいと思います。

それともう1つはさっきもビデオを見ましたけれども、織物の産地だったということで、もともと今、吉田に富士工業技術センターというものがございます。あそこはもともと上野原にあって、上野原の織物を中心とした企業が向こうにあるわけですが、それがだんだん向こうにいつてしまったということで、上野原は今、織物はわずかに2軒か3軒しかありません。

そういうことで、今、割り方、富士工業技術センターがあるために、吉田のほうは傘の地だとか、ネクタイだとかということで、次から次へと開発し、あっちの織物はかなり盛んになっているわけです。

そういうことを考えると、やはりせつかくここにこういう工業系の団体があるわけですから、県としてもできるものならばこういうものを、この地域に指導できるような施設を持ってきていただいて、そしてこれからますますこれを隆起させていくような振興を図ってもらえればなど、こんなふうにも思うわけです。

○知事

ここの織物が2、3軒あるというのは、どういう分野のことをやっているんですか。この繊維屋さんにはどんなことをやっているんですか。

○参加者

今はほとんどもうチンバタじゃないですか。

○知事

ネクタイですか、やっぱり。そうですか。

○参加者

だから、それをみんなで吉田のほうで開発をしたものへ手伝ってというものが多いいじゃないですかね。

○知事

まあ、しかし、この工業団地の中に入っているというのは、みんなそれぞれもう一騎当千の素晴らしい企業ですよ。みんなね、それぞれ大したものですが。

その企業間のいろいろな連携だとか、交流とか、そういうこともやっておられると思いますが、三多摩のほうとは非常に密接なつながりがありますか。

○参加者

結局はこの地域というのは、京浜工業地帯だとか、いわゆる大手の散在する東京と本社があるようなところ、そういうところとみんなやっているわけですよ。

○知事

みんなそれぞれあれですか、やっぱり親会社といいましょうか、みんな違いますよね。

○参加者

違います。

○知事

全然違うね。

○参加者

ここにいる皆さん、大手さんの下請という感じでやっていますからね。

○参加者

その大手が今、新興国へどんどん流出していくということで、仕事が結局なくなって来るということですよ。

○知事

大変ですね、だけど。  
何かご意見とかいかがですか。

○参加者

よろしいですか。  
郡部の格差、どの程度是正されているのかなど。それをもし予算的なことでも結構です。

○知事

やっぱり郡内・国中の格差といったときに、いろいろ格差がありますけれども、やっぱり大きいものは道路をはじめとする社会基盤の整備水準ですよ。それからもう1つは、やっぱり医療ですよ。この2つについて力を入れているんですけども、道路については、少なくとも富士東部建設事務所というものがあって、これは今、どのくらいかな。県全体でもかなりの工事量を持ってやっているんですよ。面積も広いということもありますけれどもね。

それに、山が多いですから、どうしてもトンネルや橋になりますからね。それだけやっぱりコストがかかるんですよ。

上野原でいくと、天神峠だとかですね、盛んに秋山へ行く道をつくったり、それからこれからいよいよ談合坂のスマートインターをいよいよつくろうとしたり、あるいは上野原丹波山線なんていう線ですね、整備をしたりとかですね、そんなことを今やっている最中ですよけれどもね。

あと医療の関係は今度地域医療再生計画という、これは国から金をもらってくるんですが、25億円もらってきて、それでそれぞれの地域のメインの病院に対して、支援措置を講ずると。だから今度上野原にも病院を建てるんですけども、その中には一部そういう金が入っていたりしているわけですよ。

どの程度、その格差が縮まったかという、これは数字で答えにくいところがありますが、主としてやっぱりそういう道路と医療の問題、そのへんを中心に力を入れているということなんですよ。



○参加者

先ほど言ったように、道路とか、この地元で市県会議員がいるんですが、我々もちょっと大鶴という部落なんだけれども、毎回この・・・。

○知事

旧甲州街道沿いですか。

○参加者

大月上野原線です。

前から事故が多くて、ちょっと拡幅したいということで陳情してあって、懸案事項になっているということなんですが、大体予算付けになるんですか。

○知事

懸案事項に予算付けは・・・。

通常、懸案事項であがっているということは、すぐ来年ということではなくて、もうちょっと検討してということですね。

○知事

大月上野原線、それは県道ですよ、もちろん。

○参加者

県道です。

○知事

分かりました。

それは非常に車が通るところですか。

○参加者

そうです。結構メイン通りで、ちょっと狭いので、センターラインが引けないので、県道なんです。

○知事

旧甲州街道もそうですけれども、こうくねくねしてね。なかなかやっぱり道路の整備が・・・。

○参加者

死亡事故でもなければ、こういうところは改善しない。  
たまたま結構、接触事故とか多いので。

○知事

あとはいかがでしょうかね。

○参加者

こうやって今、上野原の人口がだいぶ減少しているんですね。

○知事

今、2万7千になってしまいましたね。

○参加者

上野原の人たちは、いわゆる多摩地域、相模原地域へ買い物に行くことが多いわけですよ。ということは距離が近いという形の中で、そうしたものを逆に考えると、向こうからのお客を誘客することも考えていかなければならない。

そうすると、一番単純に考えられることは、割り方、上野原というのは大都市

も控えて近いということで、県の東の玄関として、とにかく中央線で来ると、上野原までいきますと、パーッと何か開けるような河川敷、桂川、これがもう目に入るわけです。

そうすると、あそこにはいわゆる子どもの遊び場、釣りもできるし、春になれば桜の花も咲くし、そしてサイクリングもできるような、そういうふうなものをやって、あそこへひとつ県の桂川公園みたいなものができれば、集客のきっかけになるかなど。それで来た人たちを、また上野原の宿のほうへ上げてきてするようなものでもできればなど。

上野原に与謝野晶子の書斎があることをご存じですか。

○知事

いや、それは知りませんね。

○参加者

昔、以前、まだ交通が悪いころ、馬車でもって胸を患いましたね、あの人はね。そこに衣水荘というところがありまして、そこに静養して、そこで作家、執筆していたと。今でも、そのあれが残っているそうです。

ですから、こういうふうなものだとかを売りながら、その奥のほうには、さらにこの地域が隆起して海底が上がったところがあるんですね。そこに化石が出たりする場所もある。それはどうかというと、上野原と四方津の間なんです。こういういわゆるここを1つの観光ルートにして、上野原へとにかく誘客を図って、上野原の人口も考えていかなければならない。我々の商売も人がいれば何とかなるんですけども、人がいなければ企業だけつくっても、どうにもならない。そういうことを全体的に考えれば、この地域をいかに活性化して、いわゆる上野原に住んでいて良かったというようなイメージにする、しなければならぬと思うんです。

今、県の施設というと、教育施設が上野原高校と、それから自然の家がありますけれども、そのほかは何もないわけですね。県の施設というものは。ですから、そんなふうなことで、何かまたひとつこの地域に県の施設でも考えていただいて、桂川公園でも何でも結構ですから、そんなふうなことを考えていただければと思いますけれどもね。

○知事

県も財政で厳しいものだから、箱物というものはつくらなくなってしまったんですよ、最近ね。

そうはいつでも、市が全体の構想をつくる中で、県にはひとつ応援してくれということがあれば、それはもちろん応援するわけですが、やっぱりまず地元の人が、市がやっぱりどういうふうな産業だけでなく、今おっしゃったような観光とか、そういうものを含めて、振興計画をおつくりになるか。

そういう中で県なら県も、ではどういうふうに応援していくかということになると思うんですね。それは我々としても、県としてやるべきこととか、応援できることがあると思いますけれどもね。

皆さま方は、いろいろな政策融資みたいなものをお借りになっているんですか。

○参加者

ええ。

○知事

県でいえば、商工業振興資金だとか、あるいは政策金融公庫だとか、大体お借りになる、今回、借りて、しのいでいるという感じでしょうかね。

○参加者

しのいでいるけれども、今度はそれを返すために、仕事をまず確保しなければ返せないんだけど、とにかく新興国の単価でやられると、もう利益が出ないと。非常に厳しいんですよ。

○参加者

この状況は日本全国みんな同じだと思うんですけどもね。

○知事

最近、特にはその三多摩あたりの数字はやっぱりかなり良くて、設備投資もやりたいというところもあったりして、上野原あたりでもし工業団地であれば、ほかの従業員は向こうから通わせられるから、行ってもいいんだというようなことを言うところがあるらしいんですが、やっぱり三多摩あたりは規模が大きいですかね。

上野原というのは、やっぱり企業誘致なんかやろうと思えば、結構できる場所ですよ。特に圏央道ができてきましたからね。

○参加者

圏央道ができる前は、工業団地が売れなくて、全然空いていたんですけども、それが出来てくると、バタバタと決まってしまうと、満杯になってしまったんですね。そして、そのあとリーマンショックが来て、建物が建てられなくなってしまった。

○知事

そうらしいですね。だから、ある会社が空いているからというんで、この土地をどうですか、売ってくれませんかと言ったら、いやいや、それは将来は建てるんだと言っていました。

○参加者

いずれにしても、景気に左右されますから。

○参加者

結局、せっかく工場を買っても、まずここに人口がないということで、雇用が確保できないということが、やはり買ってしてから、ああ、失敗したというのが現に多いんですよ。

○知事

通勤させるというわけには、なかなかいかない。

○参加者

いいえ、結構、通勤もしていますけれどもね。だけど、とにかく上野原の町を見て嫌になるという、こういうことをいっているんですね。せっかく働こうと思っ

てきても、町を見て嫌になる。やっぱり活気がないと。

○知事

それはそうなんですけれども・・・。

まず上野原の駅の南口をきちっと整備しなければいけませんね。今、計画を盛んにつくっておられるようですから、おいおい具体化していくと思いますけれどもね。それは県もちろん応援をしていきますけれども、あれはぜひやりたいですね。玄関口ですから。

しかし、町はどこの町も衰退しましてね。まだこの上野原の町なんかは人が歩いているのがいいぐらいでして、この国中のほうへ行けば本当に、昔はやっぱりひと角の商店街だったところが本当に。甲府の街の中はまだまだいいんですけれども、駄目ですね。

○参加者

何か皆さんご意見ありませんか。

○知事

今のところ新しい、例えば設備を入れようとか、そういうようなことまでは、とてもまだ考える段階ではないと。

○参加者

現状はそうですね。

○参加者

今、つい最近、聞いた話なんですけれども、設備はしたいんですけども、今言う単価が安くて、新品が入れられないと。去年あたりも中古屋さんがあるわけですね、機械屋さんの。そこはもう倉庫がいっぱいで、倉庫の中に置ききれないで、野積みにしてブルーシートをかけておいてあるところもあって、ここへきて、中古が売れ出したんです。新品はまだ買えないからということと。

だから、中古値段が上がってきて、もうちょっとで償却ができるような単価が取れるようになれば、設備は上がっていくと思うんですけれども、今のところ、まだ新品でどうのというところまではいかないですね。

うちなんかも、全部設備は支援機構の資金を使って全部。

○知事

リースのほうですか。それとも・・・。

○参加者

県単、貸付制度、半分無利子というもの。

○参加者

もう私も始めて40年近くになるんですが、設備関係のことは支援機構を利用させていただいて、大変ありがたく思っています。

○知事

またお借りくださいなんてね、とてもとても。

○参加者

払いが大変だから。

○知事

リーマンショック前の平成17、18年ぐらいのピークと比べ、どのくらいに

なっているんですか、大体。平均的には7割ぐらいなんじゃないかな。

○参加者

リーマン手前ぐらいまでは戻ったと思いますよ。

○知事

だけど単価が安い、やっぱり抑えられて安い。

○参加者

それはもうどんどんコストは下げられて、結局、海外との競争ということになると、コストはもう厳しいですね。でも、それに対応するためには、新しい機械を入れて、より能力アップしないと対応できないと、こういう悪循環というか、追いかけてっこのすよね。

○参加者

ただ考えて不思議なのは、例えば国防予算なんかの場合は、必ず決して予算は削減していないと思うんですよ。その品物さえも、この不況を理由に単価が3分の1ぐらいになるということは、どこかのつまみ食いが大き過ぎるという。

○知事

それはね、大企業は儲かっているということですよ。

この間、日経新聞にも出ていましたけれども、一部上場企業の今、半分が無借金経営になりましたからね。もちろん借金はあるけれども、内部留保が解けると。プラスマイナスで無借金経営になったんですよ、半分为。

結局、それはもうあれだけリストラをして、その労賃を削って、一方において、その下請企業を絞って仕事をして、それでこのところずっと輸出がいいものですから、ずっと利益が出て、損益分岐点が下がりましたからね。利益が出てきているんですね。それでたまっているわけですよ。

ところが設備投資をやるかと、彼らはまたやらないんですね、まだ。やっぱり先行きの見通しが立たないものだから。やるとすれば、海外でもやるかという話になって。

○参加者

部品というか、もう製品を海外で全部つくらせてしまって、台湾企業なんかの大手がありますからね。

○参加者

だから、その繰り返しをしていたら・・・。

○参加者

国内はどんどん疲弊していくんですよ。

○参加者

日本の企業はみんな尻貧しちやいます。

ですから、やっぱり日本国民が幸せになるためには、やはり国を挙げて、そういうまず取り組みから見直していかないといけないと思うんですよ。

○参加者

だから、この間の国の仕分け作業の蓮舫議員さんの“2番でなければいけないんですか”と。あれなんかだんトツの一番でなければいけないんですよ本当は。

○知事

そのくらいの心構えじゃなければね。

○参加者

私たちには、そういうものがあるから、やっぱり新興国にまだ追いつかれてこないという。だから、あれはちょっと私も聞いていて・・・。

○参加者

だから大手が儲けすぎていたら、やはりそのへんは経済産業省あたりが入って、これではまずいよというぐらいの策を取らないと。それで儲けた金で今度はまた海外に出してしまったのなら、どうにもならないですよ。

何かそういう機会があったら、ぜひお話ししてもらって。

○知事

だから県も産業企業融資なんていうものは一生懸命やっているんですけども、やっぱり県内の比較的、大手の企業なんかに戻ると、設備投資はそろそろやりたいと。

それから人も雇いたい。しかし、まだ踏み切れないという、先行きのいま少し見通しが立たないということで、踏み切れないと。こういうことを言う企業がかなり多いですね。

○参加者

産業クラスターの委員として参加させてもらっている中で、よく耳にすることが、中央線沿線のいわゆる地域の名をあげてくるわけですね。そうすると東京発の府中・八王子、ここは通過してしまって、あとは国母工業団地、茅野・諏訪、そして愛知へ行ってしまいうんですね。ですから、なんでこれだけ、このこういう細かい製品をできる、技術があるところが全然知れ渡ってこないか。

これを少し何とかPRしてもらって、この地域はこういう雇用に関する企業団体があるんだよということを、世にあらしめてもらいたいんですよ。

○知事

同じような、例えば長野県の坂城町とかですね、ああやっていわゆる精密加工みたいなものが集積しているところがありますよね。ああいうところとは、割と似通っているのでしょうか。上野原の場合には、バラバラ・・・。

○参加者

ほとんど同じでしょう。形態は同じだと思いますよ、坂城町と。ただ向こうのほうが宣伝力があるから。

○参加者

それでこういうことを始めたんですけれどもね。

○知事

これをね。

○参加者

ほとんど遜色、やっていることも同じようなことをやっていますし。

○参加者

このへんのほうが上だと思いますよ。

○知事

上ですか。技術力は。

○参加者

ええ。

そして、今まではどちらかという、東京大田区が中心だったんですよね。東京都が今、大田区というのが、やっぱり老朽化してきて、設備とかも。そして今度はその建物をどこへ持ってくるかという、東京都が多摩へ持って行くそうですね。そこへ力を入れるということを今やっています。

それで多摩地域に、いわゆる日本中の流通センターをつくるそうです。

○知事

何の流通ですか。

○参加者

いわゆるこういうものをつくって、そこへひととこへ持って行って、そこからまた分散するという。そのやる場所が圏央道とあれすると一番いいと。そうすると、上野原からは約20分ぐらいで行くわけですよ。そうすると先を見越す中で、どうしてもこの地域にもっと力を付けて、それに耐えられるようなものをするには、やはりいろいろとご支援をいただきたいなど。

○知事

また圏央道がすぐそこで分岐しているわけですからね、近いですよ、全くね。多摩地域というのは、いろいろな交流をしようということで、非常に活発に始めておりますね。向こうのほうは山梨県より規模は10倍くらいかな、大きい。28兆円ぐらいですよ。こっちは2兆8千億ぐらいで、10倍ぐらいになるんですけども、しかしこの地域は多摩地域とすごく近くですから、いろいろな、多摩のNPO法人がありましたね。多摩協会、ああいうものには入っておられないんですか、皆さんは。

○参加者

入ってないですね。

○知事

県が例えば展示会なんかをやるときには、そういうものにはおでになる。

○参加者

私は1度行ったかな。何か立川のところで展示会をやったときに。

○知事

そうですか。

何か県庁としてやってもらいたい、理事長が言われた、普段の観光とかね、そういうような振興、一般的なまちづくりですね。これは非常に大事なことだと思いますが、その産業に限ってはないですか。ご商売の分野に限って、事業の分野に限って。

○参加者

いずれにしても、この地域はやっぱり農・商・工・観ですね、本当に。観光も入れて考えていかなければ。

○知事

そうですね。  
何かございますか。

○参加者

私は東京西工業団地へお世話になって、丸4年が経ちまして、その節は県と市のほうで大変お世話になりまして、ありがとうございます。

私が上野原へ進出させてもらったのは、相模原に本社がありまして、お客さんが勝山と宮崎のお客さんが多くて、それで大きいものを特化してやってきまして、どこでもできるような小さいものだと、不景気なら必ず取りっこになってということで、初めはよかったです。不景気になると、どこでもすぐ右か左にはできないだろうということで、だいぶ長く世話になったんですが、不景気になるとどこでもやるところが出てきまして、もう価格の面で、仕事ゼロよりいいから、半値でやるというところまで出てきまして、急に去年、もう本当に大変な時期がありました。

私が理事長をさせてもらったときに、やっぱり人手不足でしたが、地元の方を採用することによって補助金もいただけるということで、決まりどおり地元の方がいられたもので、そのときは採用させていただきました。

今のところも、人手不足のほうは解消させてもらっています。そしてお客さんのところへも勝山と宮崎ということで、物流で相模原が本社なものですから、2時間ちょっとかかっていたんですが、上野原へ入居させていただいてから、大体、物流も半分で済むようになりましたので、本当にありがたいと思います。

○知事

勝山というのは・・・。

○参加者

牧野フライスさん、初めからお世話になっているんですが。

○知事

エレクトロンのあのエッチング部分の仙台の移管は響きますか。

○参加者

宮城のほうへ半導体をもっていきますね。

あと1年ちょっとだと思うんですがね。2年ぐらいかかるかどうか。まだまだこっちのほうから宮城へ運ぶ方法を、物流でどうやっていくかといっているようですが。

○知事

牧野さんは大きい工場用地を富士吉田に手当てをされて、いざ工場を建てようとした途端に、この不景気になって止まってしまいましたけれどもね。

○参加者

今は相当忙しいでしょうね。  
10月からはちょっと見えないと。

○知事

なるほど、ご苦労なさっていますね。



○参加者

今度の景気も、ここちょっと上向いてはいますけれども、これから11月ごろになると、全く先が見えないという、そういう状況に陥っていくということを、みんなよく言われていますね。

○知事

2番底になるんじゃないかということを心配しますよね、みんなね。

○参加者

また去年みたいな不景気が来るんじゃないかという怖さがありますね。

○参加者

あと2ヶ月後、もうそこに見えているからね。

○知事

これはみんなしかし特許を取っておられるんですか。

○参加者

メーカーさんのほうで。

○知事

これは何ですか、自動車メーカーの・・・。

○参加者

我々はもう大手さんの下請ですから。大手さんから出てきた図面を忠実につくるという。

○知事

乾いたタオルを絞るようなことを言われるということですよ。

しかし今言った、集積というのは相当大きいものだというのは、実際にそうなんですかね、やっぱり。どこへ行っていても負けない、負けないというのはおかしいけれども。

○参加者

これは力を合わせたら、どえらいものだと思いますよ。

○知事

何社ぐらいあると考えたらいいですか。

そしたら、みんなこの機械器具工業協同組合に入っているんですか。

○参加者

いいえ。

○知事

そうでもない。

○参加者

200社ぐらいあるのかな。

どのくらいある、工業関係の事業所。

○参加者

工業関係は260ちょっと・・・。

○参加者

皆さん大手さんの下請みたいな感じですから。

○知事

では町の中に分散しているんですか。

○参加者

町の中も分散していますし、我々の組合は町の中の分散で、その中の有志という形で、工業団地、20年ぐらい前に出てやったり。いずれにしろ、私どもの機械器具協同組合が母体でいろいろなことをやってはいるんですけどもね。

○知事

今の皆さんの状況を聞いていると、消費税の引き上げなんかとんでもないことになってしまう。法人税まで下げてもらいたいと。

○参加者

できることなら。法人税払えれば、それは利益を出す、先に出さなければいけないですけどもね。

○知事

さっき、中央道沿いの、産業クラスター、何か参加しているわけですか。

○参加者

理事を当初から・・・、立ち上げから県と一緒に・・・、だけど解散になりまして。当時の経済産業省も入って、産業クラスターをつくるという、ものすごく大きなアドバルーンを上げてしまったために、クラスターにするのに、その政治できるかということになってしまって、一応当初、理事として参加されて、同じような意見を発している、2人でこうやってきましたので、考え方は一緒なんですけれども、やっぱり産業政策で業績は上がらないわけですね、我々の業績は。だから、我々自らどれだけ努力するかということに対して、それは自己責任でやっていくことですね。

じゃあ、その産業政策として、何が大事かということになると、もっと大きな力として、クラスターという話が出たんです。非常にいい政策を始めるんですけども、やっぱり続かないんですよ。要するに連続性・継続性がない。政策の継続性が保たれなければ、やっぱり中途半端になる。で、うまくいかない。やっぱり山梨県特有の個性が強くて、多摩地区とは合わない。

○知事

山梨県、みんなやっぱり単独でバラバラで、あまり組織的にやろうということがないですよ。やっぱり合わないですか。

○参加者

だから、その政策として知事がどのような政策を展開するのか非常に難しいだろうとは私も思うし、だけどその企業としては、企業の責任においてやるべきことと、それから要するに政策として、その後押しをしてもらう政策を明確にしてもらうこと、この2つの責任はお互いに共有しなければいけないので、そういう意味では抽象的な言い方になるかもしれませんが、具体的に知事の産業政策の何というものが見えない。

では、具体的に山梨の産業をどうするのかという声が甲府の盆地ではされているかもしれないけれども、東の外れのここには届かない。そういうことは実感は

していますね。多摩地区の人たちとやっても、結局、政の世界で労力が7割は使われてしまって、ビジネスの話はそういうことじゃないところで話をしましょうということで、個別でやっています。

だから上野原の企業の強さというのは、甲府から70キロ離れているがゆえに、甲府からの影響というものを受けてくても受けられなかった地理的な要件と、自分たちで自活していかなければいけないという環境の中で生まれた産業なので、底力はすごい。

そこを、ではどうするかということになると、人は少なくなっていく一方ですから、東京に人力は相当、費やすものといわれていますから、労働人口は相当流れていますから、この傾向は変わりませんし、八王子市を中心に45キロだと、550万、企業で5万かな。そうすると、多摩地域への流通機能をもっていく構想がもうすぐ隣で始まっていくとなると、我々は山梨県民であるけれども、経済圏はそっちかと。

しかし、我々の生活の基盤は山梨県という県民として守られているわけだから、そのギャップというか、そういうものをいつも感じながら仕事をしているというのが上野原。私はそう思います。

やっぱり明確に示してほしい。2020年、山梨県はどうなるんだという、その産業政策ですね。そういう気持ちは非常に強く……。

#### ○知事

その産業政策は、今、山梨県もかなり産業をめぐる、その状況というものは変わってきましたからね。そういうものに対応して、産業振興ビジョンというものをつくっているんですけどもね。どうもなかなか難しいですよ。産業のビジョンを示すといってもね。

例えばこの山梨の集積、ここも集積が相当あるし、甲府盆地だって集積は相当あるわけですよ。いい技術を持った企業というものはたくさんあるわけですよ。これだけやっぱりいろいろな機械電子関係の技術を持っているところは、そうたくさんはないわけで、そういうものを使って、例えば、これから成長するとすれば、医療関係だから医療機器関係みたいなものをひとつ大いに振興していこうとか、そういうようなことはいくつかありますよね。あるんだけど、ではそれをどうやっていくかという話になると、なかなかこれは県が旗を振っただけでは駄目で、やっぱり民間企業がやっていく話ですから難しいですよ。

#### ○産業支援課長

その成長分野を示して、そしてそこにどうやってつなげていくのかということ、来年お示しできるように、今準備を進めています。

先ほどDVDの中で見ておりましたけれども、織物という、その最終製品のバックヤードにある、その織機から出てきたという、その装置産業で出てきたという歴史と、そのための設備がある、そこから機械産業に転化していくわけですけども、今のあるインフラを生かして、ここから成長分野に参入というのはどういうことなんだろうかということ、私たちも今考えております。

○参加者

私が県にお願いしたいのは、まさにそのところで、若い人たちが起業できる環境を整えてほしい。4人でも5人でも。最近、若い人たちが起業しようという意識が非常に強いと思っているし、感じているんですね。勤めている社員でも独立したいと思っている人たちは多い。

だけど、起業するにはお金も必要だし、そういう意味ではそういう環境はなかなか。では、どの分野で起業できるかということ、装置産業だとなかなか難しいし、相当金が必要になる。そうすると長期で政策金融で貸してくれるかと。その若手が事業計画書を持って行って、貸してくれるかと、そう簡単にはいきません。

他県でも、インキュベーションみたいなセンターをつくったりされるけれども、あまり保護しても駄目だし、そうすると何が必要かということ、彼らが手をあげたときに、支援してあげるような、そういう水先案内人みたいな。学生ベンチャーでもいいし、要するに企業の数を増やすということなんですよ。

そのためには若手、創業させるためのいろいろなプログラムを用意してあげるということが必要だと思うんですね。例えば、ここの商工会を通して、事業計画の立て方だとか、銀行との付き合い方とか、そういう講師はいっぱい民間にいますので、そういう人たちの知恵を借りて、私たちが会社を起業するところから始めれば、その分野はどういう分野でもいいと思うんです。

政策で産業は短期的には変わらないけれども、長期では効いてきますから。この間発表された情報通信白書の中にもあるように、もう1点集中で。例えば情報通信技術を使う産業の2020年のときの生産性と付加価値というところの伸び率というのはだんトツなわけで、そちらの興味ある若手の人たちに起業できるような環境を整えるという、そういうサポーターに県はなるべきだと思う。

ただし、実際に汗をかくのは民間の我々なので、それは自己責任でやる。

○知事

おっしゃるとおりですね。

○参加者

今、結局、後継者問題でなかなか今、大変な時期にいるわけですが、お勤めしていたほうが楽だよと。そういうことになると、後継者ができないため、技術力の継承ができない。

例えば、技術の継承をするのは、必ずしも後継者でなくてもいいわけです。そういう人たちがもし職場に入った場合には、そういう人たちに恩恵を与えてあげなければならない。ですから、できるものならば、そういう技術の継承をするような、そういうところへ就職した場合には、例えば所得税減税とか、県民税の減税とか、そういうふうな恩恵を与えてあげて、少しでもほかの人より苦勞した甲斐があるよというようなもの。そういうもののイメージを与えてあげないと、みんな楽な方向へ行ってしまいますから、技術の継承ができない。何かそんなことも考えたいですね。

○知事

なかなか難しいですね。

○参加者

大変な問題だと思うけれどもね。

○知事

ほかにいかがですか。

何かありますか。

○参加者

日本全国の中、似たようなケースがたくさんあると思うんです。そのへんの話、実際に持ち上がっていますか。

例えば、この頃の不景気なり何なりの話とか、貸付けのこととか、何か具体的な他県の事例が……。よその県ではどうですか。

○産業支援課長

他県の状況というのは、我々もつぶさに調べるんですが、一概に言えないのは、産業構造が全然違うというところです。山梨の場合は装置産業が中心な部分もあるということを念頭に置きつつ見ないといけないんですが、例えば東京都みたいにすごく体力があると、海外貿易振興策というものを積極的に取っていくということもできるわけですね。

そこで収益を海外から稼ぎながら、しかしその移転の心配をすることなく、その改革を、振興策を当局の場合は打っていける。山梨の場合に、果たしてどうだろうかというところですね。

○知事

なかなか海外進出したらどうですかと、海外との取り引きをしたらどうですかと言われても、困るでしょうね。なかなかね。

○参加者

口を開けて待っているわけではないですけども、仕事に来てくれるところが……。

○知事

だけど常にあれでしょう、もちろんその取り引きしている大企業はありますけれども、新しい取引先というものは探しておられるでしょうか。

○参加者

今の状況で新しいところは、なかなかいいところがないです。

今は大体、門前払いですね。

○知事

皆さんのいろいろな技術を持って、そういうものをこう、インターネットからのPRみたいなことはするんですか。

○参加者

そういうことをやっている方もいますけれども、最終的には先ほど皆さんが言っている、値段の問題。今の現状ですと、きついですね。

○参加者

今こういう値下げ、値下げという形の中の、その流れに乗って、これを利用する悪徳業者がいるわけです。そうすると、じゃあメーカーさんへ行って、この品

物を安くつくってくるから、任せてくださいと。そうすると、そこら中へ持ち歩いて、どこが安い、もっと下げなければとって、結局さっきのように、受けてきたところが、みんな儲けてしまって、末端は3分の1ぐらいの価格でやるようなあれですね。そういうふうなことも出てきましたよね。そのへんもまずい状況ですかね。

○知事

そういう話になると、全く先行きが、明るい見通しが開けませんね。

○参加者

ですから、せっかくの技術も見積りを入れると、では構想を出してきてくださいと。構想を出すと、その構想をよそへ持って行って見せるというような形でもって、本当に今、この情報化というものも使い分けによっては大変なことになりますね。

何しろ全般に仕事が出てこなければ駄目ということですよ。

○知事

そうですか。分かりました。

○司会

話は尽きませんが、最後に知事のほうから今日の感想も含めまして。

○知事

ありがとうございました。

改めて皆さま方の事業環境の厳しさというものを、本当に身にしみて感じたところではありますが、しかしこれはこのままいくと、日本のこのものづくり産業とか、ものづくり技術というものはどうなってしまうのかなという、本当に危機感を感じているところでもあります。

なかなか県というレベルでの産業政策では、できにくいところもあって、大きな意味での国の景気対策とか、産業政策とか、そういうものをしっかりしてもらう必要があるわけです。

特に、今、こういう中であって、新しい成長戦略、どうやってこの日本が、このデフレを克服して、少しでも成長していくかということ、何かやっぱり方向を出してもらわないと困るわけです。という感じは非常に強くするわけですが、しかしそういう中であって、県行政としてできるということは、最大限やっていきたいというように思っているわけです。

今、そんなことを一生懸命、産業振興ビジョンというようなものをつくる中で模索をしておりますので、ぜひひとつ皆さん方、いろいろご意見やら、そういうものをお聞かせいただきたいと、こういうふうに思います。

また理事長がおっしゃった、この地域のまちづくりとか、観光づくりということについても、これはやはり山梨県の東の玄関口でありますので、この地域が活性化するという事は、山梨県全体に波及する話だと思っておりますので、この上野原市と一緒に、よく考えていきたいというように思っているところです。

1つ、再認識をしましたのは、この地域の持っているこのものづくり技術というものの集積というものは、全国有数のものであると。非常にその点においては、

心強く思い、また県として大きな宝であり誇りだなというように思っているわけです。

この地域のものづくり技術の集積というのが、これからも生き残って発展していけるように、県としても最大限の努力をしますので、当面のこの厳しい時期を、どうか皆さん方、頑張って乗り切っていただきたいと、お願い申し上げたいと思います。

いろいろ個々のご相談、その他があれば、皆さんご承知のとおり、産業支援機構とか、そういうところともお付き合いがあるわけですから、そういうものについては、遠慮なくおっしゃっていただきたいし、またどうもそういう組織が動きが鈍いとか、そういうことがあれば、直接、県庁に話をいただければありがたいというように思います。

今後とも、今日でおしまいということではなくて、今後ともぜひひとつ、県庁といつき合いをさせていただきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

○司会

以上をもちまして、ひざづめ談議を閉じさせていただきます。  
ありがとうございました。